

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会

広報

# チャレンジ!

平成 29 年 3 月 31 日発行  
秋田県障がい者スポーツ指導者協議会  
〒 010-0922  
秋田市旭北栄町 1 番 5 号  
(秋田県障害者スポーツ協会内)  
TEL 018-864-2750  
FAX 018-874-9467  
E-mail:shidousha@akita-sports.jp



## あいさつ

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会  
副会長兼事務局長 佐藤 涼子

季節の移ろいを肌で感ずる候となりました。会員並びに関係者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度も多くの方々のお力をお借りしながら活動してまいりました。当協議会の事業の運営への皆様のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、今年度も当協議会では会員の交流を図り、資質向上と相互理解を深めるとともに障がい者スポーツの普及・発展に寄与することを目的とし、講習会や実技研修会を開催しました。

また新たな活動として、会員の技術指導の向上、活動の強化、きめ細かな事業の運営を図るため、三事業部会（指導部会・研修部会・情報部会）を設置しました。各担当部員がそれぞれ実践の場にたちリーダーとして活動されております。

2020 東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、国民の障がい者スポーツへの注目度が高まっております。障がいのある方も無い方もお互いが喜びや楽しさを共有し、誰もが身近な地域で生涯にわたりスポーツを楽しむ事が出来る環境づくりに寄与し、会員、各競技団体との連携を強化し、障がい者スポーツの応援隊として地域振興の一躍を担うことが出来ればと考えております。

当協議会は登録者数も年々減少し決して十分な環境ではありませんが、今年度も各種事業に取り組んでまいりますので、会員及び各障がい者スポーツ団体、並びに関係者の皆様のご指導とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

**報告**

**平成28年度秋田県障がい者スポーツ指導者協議会  
総会・第1回研修会開催される**

平成28年5月28日(土)秋田県心身障害者総合福祉センターにて、当協議会の平成28年度総会・第1回研修会が開催されました。

始めに平成27年度事業実績報告、収支決算報告、及び平成28年度事業計画(案)、収支予算(案)等について報告と協議等が行われ、皆様のご協力により承認、決議されました。

また、役員改選では、これまで理事として当協議会の運営にご尽力をいただいております松永武夫氏と阿部祐子氏が退任され、木村等氏が選任されました。退任されましたお二人のこれまでのご功勞に会員一同、心より感謝申し上げます、今後も相変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

総会終了後は、第1回研修会が実施されました。

第1部は当協議会研修部員の橋本高史氏が講師となり演題「全国障害者スポーツ大会」について、競技種目の紹介や競技の出場条件、障害区分、競技方法等概論を講話していただきました。

13時からの2部は実技研修会を実施し、講師は当協議会指導部員の小森一昭氏、高橋次男氏、阿部勢津子氏が担当し、種目はスマイルボウリングと室内ペタンクの2種目で、最初に両競技のルールや競技方法の説明の後、グループに分かれ実践に入りました。

スマイルボウリングはピンを10本倒す迄の投球回数とそのラウンドの得点となり、ゲートを通さないでピンを倒した場合は無効となる競技方法でした。

室内ペタンクは2チームで行う試合でビュット(目標物)にボールを投げ合い、より近づけ得点を競う競技でした。

両種目とも障がいの有無に関係なく、また年齢にも関係なくどなたでも入りやすい競技ではありましたが、回を重ねるごとに奥の深いスポーツと思いそれだけに楽しみもあるのかなと思いました。

指導員のみなさん、これからも各種ニュースポーツを習得、体験し、誰でも楽しめる障がい者スポーツの輪と活動の場を広げられるようレベルアップのため、新年度も各研修会や講習会に参加しましょう!

事務局長 佐藤 涼子

**秋田県障がい者スポーツ指導者協議会役員 (平成28・29年度)**

会 長	米山 隆 (再任) 横手市	理 事	谷内 祐子 (再任) 秋田市
副 会 長	小森 一昭 (再任) 秋田市	理 事	黒澤 英章 (再任) 北秋田市
副 会 長	佐藤 茂仁 (再任) 秋田市	理 事	橋本 高史 (再任) 湯沢市
副 会 長	高野 均 (再任) 由利本荘市	理 事	高橋 次男 (再任) 秋田市
副会長兼 事務局長	佐藤 涼子 (新任) (再任) 秋田市	理 事	木村 等 (新任) 北秋田市
理 事	船木 敬 (再任) 秋田市	監 事	進藤 雄一 (再任) 秋田市
理 事	豊嶋 卯一 (再任) 秋田市	監 事	及川まゆみ (再任) 横手市
理 事	小笠原 行 (再任) 大館市	指導部長	小森 一昭
理 事	半田 武好 (再任) 能代市	研修部長	佐藤 茂仁
理 事	阿部勢津子 (再任) 横手市	情報部長	高野 均

報告

平成 28 年度第 2 回実技研修会  
(3B体操・ふうせんバレーボール)

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会 情報部長 高野 均

本年度第2回目の実技研修会は2名の協議会会員が講師となり、11月23日(木)秋田県心身障害者総合福祉センター体育館を会場に39名の参加をいただき開催されました。

始めに公益社団法人日本3B体操協会公認指導士の長門美佐子氏から「遊びの要素」「気軽さ」「体に無理なく」をキーワードにした『3B体操』についての沿革と概要、3つの手具(3つのB:ボール、ベル、ベルダー)の効果と運動プログラムについて説明後、実技指導が行われました。

昼食後は、秋田市スポーツ推進員の高橋次男氏より、鈴を2個入れたふうせんを使った『ふうせんバレーボール』の基本的なルールと試合方法、チーム編成についての説明のあと実技を通して進行方法や勝敗の決め方などについての指導をいただきました。

3B体操は、1つ目が生活習慣病にならないための有酸素性運動、2つ目はロコモ予防のためのバランス機能改善運動と筋力づくり運動、3つ目にけがの予防やすべての運動に柔軟性を高めるためのストレッチング、4つ目に心身のリラックスと認知機能改善のための遊びの運動と4大効果について説明がありました。

3B体操を指導する場合、リズム感のない私としましては、細かく分ける工夫が必要と思いました。

また、ふうせんバレーボールについては、ゲーム性だけでなく競技性もあり障がい者スポーツとして紹介していきたいと思いました。



## 報告

# 「東北ブロック講習会」に参加して

初級障がい者スポーツ指導員 佐藤 清俊 (湯沢市)

ハンドサッカー「重度障害のある人でも参加できる団体競技の意義と取組み」をテーマに、平成28年度東北ブロック障がい者スポーツ指導者講習会が昨年9月17日～18日に青森県の八戸福祉体育館で開催されました。

講習会は、競技紹介映像資料を参考に、競技(試合)の進め方の説明を受け、実際に試合を体験するというもので、二日間の講習で初心者でも試合ができるようになりました。

「障がいの種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない」と掲げるスポーツ基本法が施行される30年も前の昭和53年頃、ハンドサッカーは当時都内のある養護学校の体育授業で、「ボールゲームがしたい」という生徒のリクエストに教員が応え、「手を使える子は手で(ハンド)、足を使える子は足で(サッカー)と自分の持っている機能を活かしてプレーし、活躍させよう」という想いを込め、既存の競技種目では十分に対応しきれない様々な実態の障がいのある子どもたちに合わせ、活躍の場を広げ、持っている個々の能力を引き出し、心身の健全育成を目指そうと考案されたものでした。これは、様々な障がいも個性の一つとし、一人ひとりの個性を尊重し、すべての障がい者がスポーツの価値を享受し、活力ある共生社会を目指そうとする障がい者スポーツの理念に合致するものだと強く感銘を受けた講習会でした。



## 障がい者スポーツ指導員になって

初級障がい者スポーツ指導員 佐々木 由 季 (大仙市)

初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得し、福祉の仕事に身を置いているいま、さらに視野を広げ、人と人との繋がりから得る学びを深めたいと思い、この実技研修に参加させて頂きました。

スタッフや参加者の皆さんは、とても気さくに声をかけて下さり、初参加のため緊張や不安を感じていた私ですが、すぐに心が軽くなりました。実技は3B体操とふうせんバレーが行われました。

3B体操は、補助具として使用するボール、ベル、ベルターの頭文字がすべてBであるため、3つのBを使う体操として名付けられたとのことでした。その用具も素材や機能性に工夫が見られ、体を楽しく、無理なく動かす内容に合うように考えられているのだなと感じました。馴染みのあるゆったりとしたテンポの曲を聞きながら行われたこの体操は、心まで穏やかにほぐしてくれるものでした。

ふうせんバレーの感想は、一番に楽しかった。というものでした。車椅子の方と同じ状況をパイプ椅子に座ってプレイすることで身を持って体験することができました。チームプレイであり、お互いに声をかけ合うこと。一人ひとりが役割を見つけ、自分のできることをするという。仲間で話し合い少しの作戦を見つけること。そして、仲間を信じるのが大切だなと感じました。

ゲームを終えた後には、高揚感と、充実感がありました。スポーツを通して、人と人が触れ合う中で感じる素敵な感情に気付かせてもらいました。

障がいを越えて、スポーツという共通項で、気持ちが充実し、生き生きとした生活の一つとなるような時間がこの活動にはあるのだなと思いました。

大変有意義な研修をありがとうございました。

## 平成28年度第2回実技研修会に参加して (ふうせんバレーボール実技)

初級障がい者スポーツ指導員 佐 藤 美妃子 (北秋田市)

ネット越しに両チームがボールを打ち合う一般のバレーボールのルールとあまり変わらないのですが、驚いたのは、ボールの大きさが直径40cmもある特大のふうせんでした。鈴も入っています。ふわふわしており重量もありゴムふうせんという感触でした。バドミントンコートとネットを使用し、さっそく実技に入りました。実践を通してその都度細かいルールも覚えめました。1チーム5~6人で全員が1回はふうせんに触れることが基本で、複数回触ることもOKですが6~10回で相手チームに返球しなければなりません。1ゲーム15分から20分という制限もあり、その中でチームとしてどうやっていくか考え、作戦をたてチーム力が発揮できるところまでやりました。

返球は強く打つことは違反なので、山なりに打つのですが、これが難しく悪戦苦闘してしまいました。つい力が入ってしまいます。椅子に座ったままパスしたり、ふうせんを追いかけて車椅子でコート外へ走ったりと、参加者の個性も発揮し可能性を広げて、チーム力でカバーし合いながら楽しんでいました。声かけしないと全員が触れていないことに気づかず返球してしまったりと、笑ったり汗をかいたり、1つのふうせんに振り回されています。みんなが協力し合い楽しむことができました。1つのスポーツを一緒に覚えながら、教えながら教えられながら体を動かす、実は脳も使う、心も動くすばらしいスポーツだと感じました。

今日一日良き研修に参加させて頂きました。各地域で誰でも体験できたらもっと良いですね。

## スポーツクラブの紹介

名 称：特定非営利活動法人 (NPO 法人)  
障害者アクアレッシン ミラクルスイミー

活動場所：秋田県立総合プール

活動日：平日 (月・火・水・木・金)

連絡先：ケータイ 090-5239-4175 (谷内)

コメント：水の特性を利用し、個々の障がいに応じたプール活動を行っております。リラクゼーション、泳法技術向上、体力向上、健康増進等目的はそれぞれ違っても、プール内で同じように楽しい時間を過ごすことができます。泳げるようになるまではマンツーマン指導を基本としております。初心者の方もどうぞお気軽にお問い合わせください。



## 平成 28 年度 年会費納入についてのお願い

年会費 (1,000 円) につきましては、会員の皆様のご協力を頂きありがとうございます。期限は過ぎておりますが、未納のかたは速やかに納入して頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

\* 振り込み用紙紛失の場合は郵便局に備え付けの用紙でも納入することができます。

**納入先**

秋田中央郵便局 口座番号 02210 - 7 - 94390  
秋田県障害者スポーツ指導者協議会

### よくある質問

- Q：日本障がい者スポーツ協会の会員になっているのに、秋田県障がい者スポーツ指導者協議会から研修会や講習会の知らせが無いのはどうしてですか。
- A：秋田県障がい者スポーツ指導者協議会に入会 (年会費 1,000 円) し会員となっている方には總會のご案内、各種講習会や研修会、活動の情報等を提供させていただいております。したがって、当協議会に入会していない方には情報提供等をしておりませんでした。  
なお、県内の日本障がい者スポーツ協会会員のみの方にも広報「チャレンジ！」を送付し、会加入をお願いすることになりました。是非入会申出のうえ活動していただきたいと思っております。
- Q：秋田県障がい者スポーツ指導者協議会の会費を忘れて納入していなかったのですが、どうなりますか。
- A：2 年以上滞納した場合は、会則 7 条により会員としての資格が喪失され、当協議会からの情報や活動紹介が提供されなくなります。事務局に再加入の申出と会費納入をお願い致します。

### 編集後記

今回の発刊に際し、御寄稿いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。今年度から広報「チャレンジ！」編集を情報部会が担当することとなりました。これまで一人で頑張って来られました佐藤事務局長のご苦労に敬意と感謝を申し上げます。今後、情報部員一同 (高野均 谷内祐子) 一丸となって取り組んでいく所存であります。引き続き活動紹介や御寄稿等、ご支援ご協力をお願い致します。

情報部員 黒澤英章